

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0992700146 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 もてぎ介護サービス | | |
| 事業所名 | グループホーム つきのき荘 | | |
| 所在地 | 栃木県芳賀郡茂木町大字馬門1373番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年1月30日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年3月29日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年2月15日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山林に囲まれているのどかな場所にあり、四季の変化を楽しむ事ができます。施設内は温かい印象を感じられる様木質化を図り、明るく開放感のある共有スペースをはじめプライベートな空間にも考慮し、地域の方々との交流や入居者同士のコミュニケーションが持てるよう「ふれあいホール」を設けました。中庭にはたくさんの野菜や草花を植え、利用者様と共に育て収穫することによって関わりを持ち、より一層家族らしい雰囲気が持てます。そして、同敷地内にある、デイサービスやショートステイの事業所と互いに連携を図りながらサービスを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季の変化が感じられる、町の自然豊かな山間部に当事業所は位置している。「支え合って生きる喜び、生かされる喜び」という法人理念、「ひとりひとりが主役で笑顔あふれるつきのき荘」という事業所の理念のもと、職員は笑顔を欠かさない支援を心がけ、各々の利用者に合わせて個別支援を行っている。利用者を尊重した声かけをし、思いを汲み取って利用者主体、利用者本位のケアに努めている。また、職員同士が信頼しあい、日頃から何でも言い合える風通しの良い人間関係を築くように努め、より良い職場環境を作っている。ユニットの中央に設けたふれあいホールを活用してレクリエーションを行うなど、利用者が楽しく過ごせる機会を設けている。利用者も職員も笑顔の絶えない、温かく家庭的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念と利用者1人ひとり尊重し職員も一緒に笑顔で暮らす事を大切に考えた事業所独自の理念を共同スペースに提示し、職員全員が意識しながら日々の支援にあたりサービスの向上に繋げている。 | 法人の理念と、職員が考えた「ひとりひとりが主役で笑顔あふれるつきのき荘」という事業所理念をホールに掲示している。職員は、笑顔を欠かさず、利用者を尊重しながら、理念に基づくケアの実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域との交流は、コロナ禍の為制限されていたが、徐々に太鼓の演舞等の地域との繋がりを増やしている。来年度は月1度のペースで計画している。 | ケーブルテレビの町報で情報を得て、町の行事に出かけるなど、地域に関わる活動を少しずつ再開している。太鼓、琴、フラダンス、竹細工、語り部など多方面からボランティアグループの受け入れを検討している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎月の勉強会の中で実践を交えながら一人ひとりの対応の違い等、認知症の理解と支援に取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月ごとに開催しそれぞれの立場から様々な意見を頂き、サービスの向上に繋げている。中にはヒヤリハット、インシデント、危険等の報告があり、細かく報告してある等と賞賛される事もある。 | 昨年11月から、対面での会議を再開し、町保健福祉課職員、民生委員、利用者家族、法人理事が参加している。利用者の笑顔を見たいのでボランティアを取り入れて欲しい、外出支援を増やして欲しいなど、具体的な意見が出されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 町の保健福祉課の担当者は運営推進会議にも参加している為、事業所の実情や考え方も理解して頂き、より良いサービスに向けて必要に応じて協力や助言を貰う。 | ヒヤリハットを報告したり、勉強会や研修の情報をもらったりと、日頃から連絡を密にし、協力体制を築いている。制度改正に合わせたマニュアル作成の助言などもあり、サービス向上に活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3か月に1度の身体拘束及び虐待の勉強会を開催し、日常の支援の中で尊厳を守りながらも安全面に配慮しつつ、拘束の無いケアを目指している。又、新任者に対する身体拘束廃止改善の為の研修の実施も行っている。 | 新任職員に対する研修の他、定期的なミーティングの場で身体拘束をしないケアについて振り返りを行っている。言葉による精神的な抑圧がないよう、職員同士で注意し合える関係作りも大切にしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に行われる勉強会の中で、事例を上げ全職員が理解できる様実施している。又、職員のストレス等のメンテナンケアも大切と考えている。 | | |

グループホームつきのき荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見制度を学ぶ必要と考えられる利用者に対応できる様勉強会を設けている。自己選択が尊重され、尊厳の守られたその人らしい生活が送れるよう支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の契約でご家族様、ご本人様には書類に沿って十分な説明を行い理解、了承を頂いている。特に個人情報や守秘義務、施設の重要事項の説明については丁寧に分かり易く伝える様に努めている。入居後も問題は無いかと都度確認し対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様とは、日頃の会話の中から意見を引き出せる様に努めている。ご家族様の連絡ノートを作成して支援に反映されている。来客者からの感想や意見も反映できる様に玄関先に「ご意見箱」を設置し誰もが意見できる様工夫している。 | 利用者毎に連絡ノートを作成し、利用者、家族から出された意見と事業所の対応について記し、情報を共有している。毎月の請求書送付時には、誕生日会などの行事で撮影した利用者の写真を添えて、利用者の様子を伝えている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体ミーティングやユニット会議の場に置いて、職員から意見や提案が出された時は、会議で検討し反映に活かしている。 | 管理者は、職員とのコミュニケーションを密にして、意見を表しやすい環境作りにも努めている。中庭の花や野菜の手入れに関する提案や、レクリエーションの備品の購入希望などが出され、職員間で検討し、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 行事等で刺激を持ち、ユニット毎に「目標」を作り、職員の意欲向上に繋げている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職場での支援を通して経験や資格のある職員が指導にあたり、スキルアップを目指している。向上心があり資格取得を目指す職員には事業所から経費負担などの優遇制度があり環境を整えている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との訪問や勉強会などの交流は感染症予防の為現在は実現できないが、徐々に交流の機会を増やし町保健福祉課の協力のもと取り組んでいる。 | | |

グループホームつきのき荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時に生活歴、既往歴などの情報を全職員が共有できるようにしている。入居初期には特に言葉かけを多く持ち、本人との関わりを大切にしながら安心して生活が出来る様支援している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用開始時に本人、ご家族様の不安な事や要望等を良く話し合っ支援に反映できる様努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初期段階で一番必要としている支援を見極め、事業所として出来る限りの対応に努めている。今後も情報収集に努めて行けるよう話し合っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は利用者様と信頼関係を築いて行ける様、毎日の生活の中で喜怒哀楽を共にすることで家族の様な関係を保っている。又、日常生活の中にも洗濯たみ等の出来る事は行って頂く事で役割が持て、生きがい作りに繋がっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者様の生活歴や家族様との関わりを大切に、家族様に安心して頂ける様努めている。医療機関への受診はご家族様に対応して頂き共に本人を支えて行く関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍以降、家族との面会も制限されていたが、少しずつ面会を再開した。ボランティアの方にも来て頂き、中庭での太鼓の演舞等楽しむ事が出来た。徐々に増やして行けたらと思う。 | 家族との面会、ボランティアの受け入れを徐々に再開している。花の差し入れを受け入れたり、手紙のやり取りを支援したりと、馴染みの人との関係が途切れないように働きかけている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 新しく入居された利用者様には環境に慣れるまで職員は様子観察を行って必要に応じて声掛けや案内を行い不安の無い対応に心掛けている。又、利用者様同士の関係の理解に努め利用者様が孤立せずに共に楽しめる様支援している。 | | |

グループホームつきのき荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後もこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じて相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は本人の思いを引き出せる様、傾聴する様心掛けている。自分の意思表示が困難な場合も本人の生活リズムや習慣などの日頃の様子、表情、仕草などから思いを汲み取る様努めている。 | 生活歴や家族からの情報をもとに、利用者の暮らし方の希望を確認している。常に傾聴に努め、些細な一言や表情の変化なども、こまめに連絡ノートに記すことで、利用者の意向確認、共有に繋げている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時の情報や家族様から様子を伺い、これまでの生活環境を把握し利用者様に寄り添った支援に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員は常に申し送りの中で情報の共有を行い、利用者様の心身の状況、状態を把握し安全に生活出来る様努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画は半年から1年を目安に作成し状況に応じて、その都度見直している。モニタリングは3か月に1度の見直しを行い意見や気付きを反映しながら目標達成を確認している。 | 長期目標は1年、短期目標は半年を目安に、利用者、家族の要望を取り入れながら計画作成している。孫に会いたいといった希望が出されると、その実現を目指し、安全に生活できるよう支援している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録の他に家族様との連絡ノートを活用し、職員は出勤時には必ず申し送りノートを確認し、情報の共有ができるようにしている。特記事項に新しい気づきを記入し、支援経過の見直しに活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様の状態により、寝たきりになってしまったり食事の介助が必要になるなど、日によって違う為ご家族や医療機関と連携を取りながら利用者様主体の支援に取り組んでいる。 | | |

グループホームつきのき荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍の中、理美容院、病院、避難訓練等は感染対策を行いながら安全にこなして頂ける様支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族の付き添いの下でかかりつけ医の継続受診を支援している。ご家族が遠方の場合や本人の心身状態で通院が困難な場合等は訪問診療を受けている方もおられる。 | 家族の付き添いのもと、利用前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。受診時には、書面や口頭でバイタルや日頃の生活の様子を情報提供し、適切な医療受診に繋げている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | グループホームには看護師は常駐していないが、同法人内の看護師に相談し、適切な判断や指示の協力もある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際はご家族様、医療機関との情報交換、利用者様が安心して治療ができ、できるだけ早く退院できる様努めている。退院されてからも必要に応じて関係者との状態の確認、報告、相談を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用開始時に医療機関には対応していない事、事業所の方針として看取りは行わない事など事業所として出来る事、出来ない事を伝え重度化した場合の対応について話しあっている。 | 利用開始時に、医療行為には対応していないこと、看取りは行わないことなど、事業所の方針を伝え、重度化した場合の対応について話し合っている。一般浴での入浴が困難になったタイミングを目安に、特別養護老人ホームへの住み替えを支援するなど、段階的に話し合いを重ねながら、事業所としてできる限りの対応をしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変時や事故発生に備えて講習会を行い応急手当や救急車対応などの訓練を定期的に行い実践力を身に付け、ご家族で救急搬送時に対応して頂ける方の確認や個人ファイルや定期的な情報の更新や確認を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中や夜間想定した避難訓練を自主訓練又は消防署立会いのもと年2回実施している。利用者、職員共に災害時の対応を身に付けている。緊急連絡網に民生委員や近隣の協力を得ている。 | 年2回、夜間想定を含む避難訓練を実施しており、職員同士で避難時の動線を考える訓練にも取り組んでいる。地域住民に緊急連絡網に登録してもらい、有事に協力を得られる体制を整えている。水や非常食、日用品等の備蓄も半年毎に確認しながら適切に管理している。 | 全職員が災害の種類や状況に合わせた避難方法を判断する力を身につけるために、法定訓練以外の実践的な自主訓練を行うことが期待される。 |

グループホームつきのき荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレ誘導の声掛けや入浴支援では羞恥心に配慮した対応を心掛けている。一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない対応に心掛けている。 | 利用者の呼び方は姓に「さん」付けを基本とし、馴れ合いにならないよう留意しているほか、トイレ誘導時のさりげない声かけ、入浴時の羞恥心への配慮など、言葉使いを中心に、利用者を尊重するケアに努めている。個人のファイルは、ユニット毎に施錠できる場所に保管している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の支援の中で、職員は常に信頼関係を構築できる様努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居時に家族様や本人から聞き取った自宅での生活パターンや、意向に出来るだけ添える様に対応しユニットケアの実践を目指している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 身だしなみを整えたり、本人の好きな洋服を選んで頂いている。おしゃれをすることは自身の意識も変わりその人らしい生き方にも繋がる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 施設内で採れた野菜を新鮮うちに調理し食べて頂く。昼・夕食は隣接するSS事業所で専門の職員が献立作成し調理を行っている。利用者の希望も取り入れ野菜の皮むきなど出来る事はお手伝いをして頂いている。 | 隣接のショートステイの事業所の職員が献立作成、昼食、夕食を調理し、ごはん、汁物はユニット毎に調理、提供している。利用者の希望を取り入れたり、旬の食材や近隣住民、利用者家族から差し入れられた食材を活用するなど、工夫しながら食を楽しめる支援に努めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者に合わせて食事形態を工夫したり体重の増減も考えながら提供している。又少しでも自立摂取が出来る様支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内の雑菌が肺炎の原因になるため、口腔ケアの重要性は職員全員が周知している。義歯の洗浄も定期的に行っている。 | | |

グループホームつきのき荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録と日常の排泄パターンを把握し、時間毎に声掛けや誘導を行っている。残存能力に合わせた介助を行い出来る限りトイレでの排泄を支援している。 | 排泄パターンを個別に記録し、適切なタイミングで声掛け、誘導している。日常的にオムツやパットを使用している利用者にも、できる限りトイレ誘導をして意識づけすることで、自立した排泄ができるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日無理の無い体操やお茶の提供又は食物繊維の食事を提供し、便秘予防に努めている。内服薬で対応している方もいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者様の体調や気分に合わせて午後の時間帯に週2.3回を基本に入浴している。拒否のある利用者様にも声掛けを工夫しながら入浴剤等の工夫をし、入浴を楽しんで頂いている。 | 浴室には手すりを多く設置し、入浴時の安心に繋げている。週2～3回、午後の時間帯の入浴を基本としているが、体調によりシャワー浴や清拭に対応するほか、肌の保湿にも気を配るなど、一人ひとりに合わせた支援に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人ひとりの生活習慣やその日の体調に合わせた休息や入眠に努めている。生活のリズムを整えて、出来るだけ昼夜逆転とならないよう心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬は誤薬や落薬の無い様に名前、日付など本人に声を出して確認してから内服して頂いている。又症状に変化が見られた時にはご家族様に連絡し、主治医とも連携を図っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 1人ひとりの生活歴や日々の暮らしの中から興味や関心のある事を見出しそれを生活に活かせる様な支援に努めている。カラオケや外出支援も行いよい気分転換となっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染症対策をしながら外出支援を徐々に実施している。季節ごとに、花の名所や馴染のある場所にドライブに出かけたりしている。又、暖かい日は施設周辺の散歩をする機会を設けている。 | 山桜、彼岸花、ひまわり、コスモスなど季節の花見を外出に取り入れている。家族支援のもと、通院での外出時にドライブを楽しんだり、中庭で花の手入れをしたり、周辺を散歩したりと、日常的に戸外にでる機会を設けている。 | |

グループホームつきのき荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 施設内では利用者がお金を持つ事はトラブルの原因になり所持する事は無いが、ご家族の都合で日用品の用意ができない方についてはお金をお預かりし職員が調達にいくこともある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の中には携帯電話を持って入居される方もおり、自由に使用されている。電話の無い方も希望があれば取次を行って外部との交流が図れる様に支援している。親しい友人、家族、孫と手紙や年賀状のやり取りも行われている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 職員は利用者の感覚や価値観を大切にしながら季節の花や、展示物を各ユニット、玄関に飾り快適に生活して頂けるよう支援に努めている。 | 季節を感じられる空間作りを大切にしており、1月は正月、2月は節分といった季節の飾り付けを施している。換気にも気を配りながら、温湿度を調整し、快適に過ごせるよう配慮している。ユニットの中央にふれあいホールを設け、レクリエーションなど多目的に活動、交流できる場として活用している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人ひとりの生活スタイルやその日の気分にあわせて共同スペースと個室を使い分けている。体調に合わせてベッドで休んで頂いたり、ユニット間の交流をする等思い思いに過ごされている。静かに読書をされている利用者様もいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染の家具を持ち込み、その人らしい居室作りをしている。それぞれの思い出の写真や作品を飾り居心地の良いスペースになっている。 | エアコン、吊り戸棚、カーテンが備え付けられている。ベッドは使い慣れたものを持ち込み、布団を敷くこともできる。掃除は毎日専門の職員が行っている。写真や作品を飾り、利用者の思い思いの部屋作りができるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はそれぞれ介助バーが設置してあり、安全に出来るだけ自立した生活が送れる様支援に努めている。 | | |